

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202528		
法人名	有限会社ケア・アンド・サポート		
事業所名	グループホームゆうしゅん(1Fユニット)		
所在地	長崎県佐世保市東浜町846-3		
自己評価作成日	令和元年11月5日	評価結果市町村受理日	令和2年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和元年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

佐世保湾を眼下に眺め風光明媚で豊かな自然の下「入居者様全員が幸せに過ごせますように」を理念に掲げ日々、利用者様の意志を尊重し、お一人お一人が楽しく生活出来るように職員一同支援に努めている。常に自立支援を念頭におき、残存機能を活かした介護にあたることで認知症の進行防止及び身体機能維持に努めている。日課においては、基本的な1日の流れはあるが利用者個々の意向に応じ柔軟に対応している。レクリエーションでは利用者様、職員が共に参加することで楽しく過ごして頂けるよう努めている。又、食事には、最も力を注いでおり、利用者様の好みや嚥下状態を考慮しつつ常に栄養バランスや旬の食材を提供し食の楽しみを感じて頂けるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設からの理念「入居者全員が幸せにお過ごしになられますようにご支援致します」を念頭に置き、職員は支援に努めている。運営推進会議の詳細な議事録や家族への毎月の介護記録等の書類開示は、事業所の運営の透明性と誠実な対応が窺え、家族や事業所を取り巻く人たちの信頼感に繋がっている。ケア会議で検討された事項は個人毎に再度記録し、介護計画の見直しの際に活用する仕組みが確認できる。また、消防計画書に沿った毎月の自主訓練と毎日の自主点検の実施等、事業所の防災意識の高さが窺える。毎日の食事を支援の要と位置づけ、一日2回のおやつと栄養バランスのよい手作りの食事を提供している。特に春と秋の遠足で、全員でホテルのランチバイキングを楽しんでいることは特筆すべきであり、理念の具現化に真摯に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者全員が幸せに過ごせますように」の理念を掲げ理念に基づき日々、入居者様の幸せとは何かを念頭に置き、毎日笑顔で過ごして頂けるように、職員全体で努力している。	開設時からの理念は事業所内の目に留まる箇所に掲示しており、新人職員には入社時に説明し理念の大切さを伝えている。職員は利用者にとって何が幸せなのかを常に考え個別支援に取り組んでおり、笑顔で穏やかに暮らせるよう、理念を共有し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所主催の行事にボランティアの訪問があり、地域との交流を深めている。又、公会堂掃除に参加し、地域の構成員として役割を果たし交流を深める様努めている。	町内会に加入し、定期的にホーム便りを回覧板で回しており、職員は公会堂掃除や総会に参加している。近隣住民から果物のお裾分けがあり、敬老会には演芸ボランティアの受入れもある。ただし、日常的に利用者が地域の住民と双方で交流する機会が少ない。	利用者の笑顔に繋がるような地域との双方向の交流に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々からの相談、お問い合わせについては、自治会長や民生委員様方を通じて助言、アドバイスを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度定期的に会議を開催し、施設の様況や活動報告を行っている。又、質疑応答や意見交換を行い、情報収集に努めサービス向上に活かしている。	年6回規定メンバーで会議を開催している。事業所行事や活動、入居者状況の報告の他、地域の情報交換の場となっている。施設長は参加者が発言しやすい雰囲気作りに努めており、会議要旨録から活発な意見交換が確認できる。参加者に避難訓練を見学してもらう等意見を活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて自治体の相談窓口へ出向いている。運営推進会議には毎回地域包括支援センターの方に参加して頂き助言、アドバイス等受けている。	認定更新申請や事故報告の書類提出の際、不明な点を尋ねたり相談に乗ってもらう等、必要に応じて行政窓口に出向いている。利用者の補佐人選定等の手続きや相談の際にも職員が同席している。行政から案内のある研修を職員は受講している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が研修や勉強会などを通じて、身体拘束を理解し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	指針を事業所内に掲示し、運営推進会議内で身体拘束適正化委員会を実施している。センサーマット使用の際には、家族に同意を得て経過を見て検討し、解除に向け取り組んでいる。利用者には「ちょっと待って」と言う場合には理由を説明しており、職員は拘束のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部勉強会、外部研修に参加し、職員全員が利用者様の人権を尊重し、虐待の無いケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解を深める為研修に参加している。又、成年後見等の制度が必要な利用者様については、制度の説明や自治体や民間の機関を紹介している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご家族、利用者様を含め分かり易く丁寧な説明を心がけており、納得された上で同意を得ている。又、契約内容の改訂時は都度文書送付、説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、御家族に関しては施設での生活状況は「ゆうしゅん便り」で報告を行ったり面会時や電話をかけた時等に意見を伺い運営に反映されている。	入居前には、重要事項説明書にある苦情解決のしくみを家族へ説明している。家族の面会時には、職員から必ず声を掛けるよう努めている。毎月発行する“ゆうしゅん便り”には、新入職員の名前とコメントを掲載して、名前を覚えてもらう工夫が窺える。利用者からは、食べたいものを聞き取って献立に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議は毎月定期的で開催しており、意見を吸い上げる場は設けられている。又、職員全体会議や勉強会の場で意見交換することもあり、前向きに取り組んでいる。	月1回開催する職員会議では、全員が発言をすることを決めており、活発に意見の交換を行っている。行事毎に担当者を決め、行事後には反省会を行っている。シフトは、家庭優先で決めている他、産前産後休業を取得している職員もあり、働きやすい職場環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準に関しては、現在介護保険制度に左右される事が大きく、整備には苦渋している。勤務状況の把握は毎月確認実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に関してはできるだけ出席していただき、勉強会で報告するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を通じて、相互の勉強になるように努め、情報交換の場としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴等必要な情報を得た上で、利用者個々との対話を行う事で信頼関係を築き、心身状況の把握理解し、傾聴の態度で接するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所される前の事前面談で、ご家族の要望や思いをしっかりと傾聴し、施設での対応、方針について話し合い不安解消に努め、安心して生活できられるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者ご家族との面談の場を設け、十分な話し合いを行ったうえで、必要なサービス提供をできるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節の行事実施の際には、風習を教えてください、意見を伺う等、人生の先達であることを念頭に置き、楽しく共同生活が送れるよう、心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々、利用者様の体調、情緒の変化に気を配り、施設での様子をご家族様に伝え、情報の共有、支援の方向性をご家族の意向を伺いながら共に支えあい支援するよう努めている。又、毎月の記録開示も実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣地域に居住されている馴染みの知人様の面会や、月命日法養時のご住職様の来訪もあり、交流継続している。又、関係が途切れないよう支援に努めている。	面会には、家族の他友人も訪れている。居室に仏壇を置き、毎月住職が訪れている利用者の他、家族と共に墓参りに出掛ける人もいる。携帯電話を使用している利用者がある他、年賀状を書く支援も行っている。遠方の家族から、定期的に葉書が届いたり、電話の取次ぎも行っており、馴染みの関係が続いていることが確認できる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングに集い、利用者様同士で交流出来る機会を作り、職員が会話のきっかけを作ってコミュニケーションが図れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も他施設や医療機関への面会やご家族との情報交換を行うなど、入所時に構築した関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者様、ご家族への意見を伺い、更に日常の行動、言動や表情から思いをくみ取り、意見の発信の困難な入所者様も、その人らしく生活出来る様、支援に努めている。	職員は、1日1回は、必ず利用者と会話することを心掛けている。発語困難な利用者に対しては、表情から汲み取ったり、家族へ尋ねたりして思いを把握している。目の不自由な人に対しては、居室までの歩数等を伝えて支援を行っている。利用者の生活歴について新たな情報は、口頭で共有を図っているものの、記録に残していない。	利用者の思いや意向を把握する際に、生活歴を把握することが重要である。聞き取った新たな情報を記録することで、職員間で更なる共有を図ることが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の事前面談にて、生活歴等情報収集を行い、入所後もご本人様、ご家族様との会話の中から支援につながる情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調、行動、表情、言動を常に観察し、毎日の情報交換や月1回のユニット会議で現状把握を行い、個別サービス提供に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所者様本人、ご家族様面会時に意見、要望を確認し、ユニット会議を実施、必要に応じての変更訂正を行っている。	計画は基本的に長期1年、短期6ヶ月としている。毎月、家族に利用者本人の介護支援記録等を開示しており、その際に意見や要望を聞き取っている。毎月、全職員でモニタリングとカンファレンスを行っており、本人の状態に応じて変更している。計画は、家族の同意を得て、実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン実施表や介護支援記録等に生活状況を記録し、職員間で情報共有を行っている。またそれらの記録をもとに、介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所者様の心身の状態やご家族の意向に配慮しながら、臨機応変に対応し、入所者様の満足に繋がるよう、サービス提供に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に近隣の美容室からの訪問美容サービスを受けている。運営推進会議開催時、出席者の方からの情報を得ながら、地域資源を活用した支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を受ける体制が整っており、ご家族とも情報共有し健康管理を行っている。又、希望される医療機関への受診が出来る様支援している。	代表は医師であり、定期的な訪問診療が受けられることを説明し、本人・家族に希望を聞いている。毎日職員は、利用者の状態を訪問看護師に報告しており、健康管理体制が充実している。協力医以外の受診には家族が通院同行しており、受診内容は個別記録に記載し、職員間で共有している。緊急時の医療連携体制も整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制下、担当看護師による定期的な訪問と情報共有で日常的な健康管理を支援している。また、体調不良や急変時は早期に適切な対応ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は随時面会を行い、状態の把握やご本人様の不安の払拭に心がけている。ご家族様、医療機関との情報交換も密に行い、万全の態勢での退院支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期、看取りについての事業所方針を文書化し入所者様本人、ご家族へ説明を行い、同意を得ている。終末期の支援については、入所者様、御家族の意向要望を確認しながら関係者全員で話し合いを行い、同意の上で支援実施している。	入居時、本人・家族に重度化した場合の対応に係わる指針を説明し、同意を得ている。状態の変化に伴い、主治医と共に都度家族に意向を確認している。事業所では昨年、主治医、看護師、家族と話し合いを重ね、看取り支援に取り組んでおり、看取り後には職員が、振り返りの話し合いを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防避難訓練時、緊急時の対応や、AEDの使用方法、蘇生術等の説明や講義を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	防火管理や消防計画書を作成し、定期的に消防避難訓練を実施し、確実な通報や避難誘導が出来るように努めている。消防署立ち合いの訓練を年2回実施し、各種アドバイスも受けている。	年2回消防署立会いの総合訓練の他、毎月の自主訓練と毎日の自主点検を実施している。消防計画書に沿い、訓練を実施しており、反省点を出し合い次の訓練に活かしている。今年は運営推進会議メンバーの訓練参加もあり、また、消防署員とハザードマップを基に自然災害時の対応を検討する等、防災意識の高さが窺える。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者様は人生の先達であることを念頭に置き、お一人ずつの人格を理解し、性格にあった声かけ等の工夫を実施している。	職員から守秘義務について誓約書の提出を求めている。利用者の呼び方は、名前にさん付けが基本である。パッド類は人目につかないよう収納し、羞恥心への配慮が窺える。介護記録は、鍵付きのロッカーに収納し、記録中の書類も外部の人の目に触れないような工夫が見られる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者様の意見を尊重し、発言し易い場面作りを心がけ、傾聴するよう努めている。発言困難な入所者様には表情や仕草等で意思をくみ取るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体としての一日の生活の流れはあるが、各自の体調や精神状態に合わせ、ご本人様の意思を尊重し、希望に沿った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を利用されている。可能な方にはご本人様に衣類の選択をさせていただいたり、整容を行っていただいている。介助の必要な方には意向確認行いながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事に合わせた献立や、誕生会、入所様の好みを伺う等、希望に添った献立作りを心がけている。食前のテーブル拭きや、簡単な下膳等のお手伝いをしていただいている。	食事は、職員の手作りである。おせち、七草粥、恵方巻、うな井、冬至のかぼちゃ等季節感を大切に行っていることが窺える。夏祭やクリスマスにはバイキング形式の食事や年に2回のホテルでの外食を企画しており、食事が楽しいものとなるよう支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の好みや体調に応じた食事量や食事形態の工夫を実施している。又、摂取量の記録を行い健康管理に繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、可能な方にはご自身で、介助の必要な方には一部介助等、ご本人の能力に合わせた支援を行っている。又、週1回義歯の消毒洗浄を行い、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し言動や行動、仕草で排泄の欲求を察知し、トイレでの排泄が出来る様支援している。又、極力オムツの使用は避け、自立した排泄の支援に努めている。	排泄の記録を付け、利用者個別のパターンを把握している。オムツの使用を避け、トイレでの排泄を目標としている。介護度の重い利用者に対しては、職員2名で介助し、トイレでの排泄を支援している。パッドのサイズについて職員間で検討を重ね、改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な日常運動や、レクリエーション等で体を動かして頂き、食事の面では食物繊維や乳酸菌の摂取、こまめな水分補給で便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には曜日設定しているが、入所者様、ご家族からの要望には臨機応変に対応している。又、菖蒲湯や柚子湯など季節感ある風呂を提供している。	浴室内は、エアコンにより冬場のヒートショックを予防している。週2日の割合で入浴支援を行っているが、設定日以外であっても入浴は可能である。体調が悪い場合は、清拭で対応している。入浴後は、クリームを塗り乾燥を防いでいる。入浴剤の使用の有無は、ユニット毎に違い、利用者により添った支援を行っていることが窺える。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個々の体調に合わせて活動して頂き、ゆっくり休養が取れる環境づくりに努めている。又、日常運動やレクリエーションで適度な疲労を感じ、夜間の安眠確保に繋がるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに最新、過去の薬事表を保管し、全職員が把握できるようにしている。又、飲み忘れや誤薬等が無い様に、内服薬は三重の確認、服薬後の薬袋の保管を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年2回の外出や、演芸ボランティアの方の来訪、季節ごとの行事の実施により気分転換を図っている。レクリエーション実施時には視覚障がい者に配慮し、得意分野を生かした共同生活が出来るよう、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事前の申し出があれば出来るだけ要望に添う様努めている。気候の良い時は玄関先のベンチに座って外気浴を楽しんでいただく。	天気の良い日は、玄関のベンチに座り歌を歌ったりして、外気に触れる機会を作っている。桜の季節には、お花見に近くの公園に出掛けている。家族と病院受診の往復で外の景色に触れている。ただし、日常的に買い物や散歩等の外出する機会が少ない。	外出は、利用者にとって気分転換や五感を刺激する機会を作るという意味もあるため、できるだけ外出の機会を増やす工夫に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的な外出行事やご家族との外出時は、希望や能力に応じた支援に努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話する際に入所者様に電話をつないだり、希望されればこちらから電話をかけている。又、年賀状等はがきを書いていたがき、職員が投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁面に季節に応じた装飾を行い、花を飾る等視覚で楽しんでいただき、心落ち着く環境づくりに努め、居心地よく過ごして頂けるよう工夫している。	両ユニットともリビングからの眺めが良い。室内は明るく、廊下は車椅子での行き来にも十分な広さがある。季節の花や季節を感じる飾り付けを施している。テーブルを囲んでトランプを楽しんだり、窓からの景色を眺めるなど利用者は思い思いに過ごしている。職員による清掃、整理整頓が行き届き、快適な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテレビ、新聞、雑誌などを設置しており、自由に読めるようにしている。気の合う入所者様同士会話を楽しんでいただき、思い思いに過ごして頂ける様、配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人様、御家族と相談しながら、思い出の品や愛着のある物、使い慣れた家具等を持ち込んでいただいたり、写真や装飾品を飾っていただき、居心地良く過ごせるよう努めている。	各居室には備えつけのベッドとクローゼットがあり、本人の使い慣れたものや好みのものの持ち込みは自由である。家族写真や仏壇、テーブル、椅子、衣装ケース等動線に合わせ配置している。職員が毎日清掃・換気を行い、居心地よく過ごせるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様個々の身体、認知能力を考慮した住環境作りを意識し、全員が安全に出来るだけ自立した生活が送れるように努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202528		
法人名	有限会社ケア・アンド・サポート		
事業所名	グループホームゆうしゅん(2Fユニット)		
所在地	長崎県佐世保市東浜町846-3		
自己評価作成日	令和元年11月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者全員が幸せに過ごせますように」の理念を掲げ理念に基づき日々、入居者様の幸せとは何かを念頭に置き、毎日笑顔で過ごして頂けるように、職員全体で努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所主催の行事にボランティアの訪問があり、地域との交流を深めている。又、公会堂掃除に参加し、地域の構成員として役割を果たし交流を深める様努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々からの相談、お問い合わせについては、自治会長や民生委員様方を通じて助言、アドバイスを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度定期的に会議を開催し、施設の様況や活動報告を行っている。又、質疑応答や意見交換を行い、情報収集に努めサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて自治体の相談窓口へ出向いている。運営推進会議には毎回地域包括支援センターの方に参加して頂き助言、アドバイス等受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が研修や勉強会などを通じて、身体拘束を理解し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	内部勉強会、外部研修に参加し、職員全員が利用者様の人権を尊重し、虐待の無いケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解を深める為研修に参加している。又、成年後見等の制度が必要な利用者様については、制度の説明や自治体や民間の機関を紹介している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご家族、利用者様を含め分かり易く丁寧な説明を心がけており、納得された上で同意を得ている。又、契約内容の改訂時は都度文書送付、説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、御家族に関しては施設での生活状況は「ゆうしゅん便り」で報告を行ったり面会時や電話をかけた時等に意見を伺い運営に反映されている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議は毎月定期的に開催しており、意見を吸い上げる場は設けられている。又、職員全体会議や勉強会の場で意見交換することもあり、前向きに取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準に関しては、現在介護保険制度に左右される事が大きく、整備には苦渋している。勤務状況の把握は毎月確認実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に関してはできるだけ出席していただき、勉強会で報告するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会を通じて、相互の勉強になるように努め、情報交換の場としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴等必要な情報を得た上で、利用者個々との対話を行う事で信頼関係を築き、心身状況の把握理解し、傾聴の態度で接するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所される前の事前面談で、ご家族の要望や思いをしっかりと傾聴し、施設での対応、方針について話し合い不安解消に努め、安心して生活できられるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者ご家族との面談の場を設け、十分な話し合いを行ったうえで、必要なサービス提供をできるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	季節の行事実施の際には、風習を教えたいいたり、意見を伺う等、人生の先達であることを念頭に置き、楽しく共同生活が送れるよう、心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々、利用者様の体調、情緒の変化に気を配り、施設での様子をご家族様に伝え、情報の共有、支援の方向性をご家族の意向を伺いながら共に支えあい支援するよう努めている。又、毎月の記録開示も実施している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣地域に居住されている馴染みの知人様の面会や、月命日法養時のご住職様の来訪もあり、交流継続している。又、関係が途切れないよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングに集い、利用者様同士で交流出来る機会を作り、職員が会話のきっかけを作ってコミュニケーションが図れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も他施設や医療機関への面会やご家族との情報交換を行うなど、入所時に構築した関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の言動・行動・表情から思いを汲み取りご家族から意向、希望を伺い職員との情報交換を行い希望に添えるような支援を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴等の把握、理解に努め日々の生活の中から新たな情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の体調や言動・行動表情を観察し、又、毎日の申し送りや毎月のユニット会議で情報交換を行い、サービス提供を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人、ご家族の面会時、要望や意向を確認し本人主体の介護計画を作成している。毎月のカンファレンスを実施し、必要に応じて変更修正を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の支援記録を用い実施状況・食事量・生活状況を記録し、職員間で情報共有し、実践や介護計画の見直しに生かしている。又、毎月、ご家族に開示している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況や要望に柔軟に対応している。本人の思いに添える様に努め、ご本人の満足に繋がるようなサービス提供に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に近隣の美容室からの訪問美容サービスを受けている。運営推進会議開催時、出席者の方からの情報を得ながら、地域資源を活用した支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を受ける体制が整っており、ご家族とも情報共有し健康管理を行っている。又、希望される医療機関への受診が出来る様支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制下、担当看護師による定期的な訪問と情報共有で日常的な健康管理を支援している。また、体調不良や急変時は早期に適切な対応ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は随時面会を行い、状態の把握やご本人様の不安の払拭に心がけている。ご家族様、医療機関との情報交換も密に行い、万全の態勢での退院支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期、看取りについての事業所方針を文書化し入所者様本人、ご家族へ説明を行い、同意を得ている。終末期の支援については、入所者様、御家族の意向要望を確認しながら関係者全員で話し合いを行い、同意の上で支援実施している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防避難訓練時、緊急時の対応や、AEDの使用法、蘇生術等の説明や講義を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	防火管理や消防計画書を作成し、定期的に消防避難訓練を実施し、確実な通報や避難誘導が出来るように努めている。消防署立ち合いの訓練を年2回実施し、各種アドバイスも受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意を払い日々の言葉かけや態度に留意している。ホーム便り等の個人情報や写真掲載について同意を得ている等、プライバシー保護に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に本人の意見を尊重し意見を発言できられる方には傾聴し意思表示困難な方は表情、仕草等から読み取ったり自己決定し易い言葉かけを工夫し対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースや体調に合わせて本人の意向を確認し希望に添った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思表示できる方には、ご本人に衣服を選んで頂いたり、身だしなみには気を配り、毎日気分良く快適にお過ごして頂ける様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	伝統行事の行事食、誕生会等のメニューも幅広く利用者様の希望に添った献立作り心掛けています。お膳の片付けは利用者、職員が協力して行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個々の好みや体調に応じた食事量や食事形態の工夫をしている。極端に食事摂取量が少ない入所者様は6回食の提供を行っている。又、摂取量のチェックを行い、健康管理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者個々の能力に応じた声掛け見守り、一部介助等口腔ケアの支援を行っている。又、週1回義歯の消毒洗浄を行い、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェックを行い、行動仕草を察知し、トイレでの排泄が出来られる様支援している。又、オムツ使用は極力減らし、排泄の自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常運動や体を動かすレクリエーションにて体を十分に動かして頂き、又、便秘や消化に良い食材、料理、乳製品や乳酸菌飲料も取り入れながら水分補給を促し便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的曜日設定しているが、本人ご家族からの要望がある場合は、その時の状況に合わせて支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体調に合わせてご本人のペースで活動して頂き、又、適度な運動やレクリエーション活動を行って頂く事で夜間の安眠確保に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに最新・過去の薬事表を保管して常に全職員が内容を把握出来るようにしている。又、飲み忘れや誤薬等が無い様、内服薬は三重の確認体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年2回外出行事やレクリエーション活動、ボランティアの方々に来て頂き、気分転換を図っている。又、利用者個々の経緯や得意分野を生かした共同生活が送られるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年2回の外出支援や季節によって花見に出かけたりと季節感を味わって頂いたり、事前の申し出があれば状況を見て、出来るだけ希望に添った外出が実現できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出行事やご家族との外出時は個々で支払いをして頂く等、希望時はご家族と相談しながら臨機応変に対応行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望時はご家族に電話連絡を行っている。又、年始の挨拶等、本人に書いて頂いたり、書く事が難しい方に対しては本人の思いを職員が代筆させて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁に季節に応じた月々の装飾を行い、花を飾る等季節感を楽しんで頂き、落ち着く環境作りに努めている。又空調調整や光による刺激が無い様配慮し居心地良く生活出来る様工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはソファを配置し入居者様が思い思いに過ごされる。又、入所者様同士の相性等を考慮し席を配置させて頂き、入居者様同士コミュニケーションの取れる空間作りを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から持って来られた思い出の写真や装飾品、使い慣れた家具又、遠方に住んでおられる家族からの手紙等を飾って頂き、これまでと近い環境で居心地良く過ごせるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個々の心身状態に応じ住環境を整え全員が安全に出来るだけ自立した生活が送れるよう努めている。		